

新分野新製品の開発

(1)ガーデニング・グッズ製品の開発

(2)有田焼人形等製品(ノベルティ製品)の開発

川久保正行・藤 靖之・江口佳孝・佐藤 彰

現在、エコロジー等(自然回帰)の影響で、ガーデニングがブームであり、そのブームが洋から和へと移行し、肥前地区の素材、技術が参入する絶好の機会である。そこで、個人住宅に向けたガーデニング・グッズ及びベランダ・バルコニー向けのテーブルセット等製品開発を行った。

また、からくり人形、からくり時計製品の開発においての技術を用い、奈良県万葉文化館から依頼の万葉歌人形、からくり時計レプリカ人形の製作を行った。これらは、エクステリア研究会、大有田焼振興協同組合を通し、試作品の商品化に対し、製造、デザイン等の支援を行い、展示会への出展等により市場調査・製品PRを行った。

これまで、業務用和食器を主力として生産を続けてきた肥前地区窯業圏において、景気低迷に伴う外食産業の落ち込み、旅行形態の変化に伴う旅館等の食事の変化または日常の和食器離れ等の要因により低迷の一途をたどっている。

このような状況の中、少しでも食器受注の隙間を埋められる製品の開発が望まれている。このため、食器外製品の開発を行い、エクステリア研究会、大有田焼振興(協)への支援をとおり、市場の認識または市場の拡大を図ることを目的とした。

(1)ガーデニング・グッズ製品の開発

1. はじめに

エクステリア研究会では、大型水回り製品、ガーデンファニチャー等製品開発に取り組んできたが、通常のメーカーでは、価格面または設備面において具体的な商品化に繋がらないう面があった。そこで、成長産業であるガーデニング関連産業に参入することにより、コスト面に配慮した有田焼ガーデニング・グッズの提案及び商品化を目標とした。

2. 研究開発の方向性

今日の都市圏での住宅事情は、持ち家若しくは一戸建て住宅よりは、集合住宅(アパート、マンション)での住居者が70%と多く、一戸建てにおいても庭の広さが数坪若しくは無いのが現状である。

しかしながら、バルコニーガーデン、観葉植物、水耕栽培といった地面を有さずとも考えられる植物の栽培(室内での栽培)は、女性向けファッション誌に頻りに特集される様に今やブームである。これらに対しアイテムは、素焼き

鉢、プラスチック鉢、他の製品を代用した物(ガラスコップ、そば猪口等)であり、専用のアイテムは無いのが現状である。しかし、都市圏のオフィス街に在るグリーン・ショップ等では、OLがギフトとして小さな鉢物を購入する傾向があり、職場や家庭で楽しんでいる状況である。

また、新しい植物の栽培として、苔玉、ミニ盆栽等がブームになりつつあるが、これらに於いても専用のアイテムがなく代用品の器が用いられている。

そこで、有田焼(磁器)の特性である耐水性、数多く考えられる加飾を生かし、屋内、半屋外(ベランダ、バルコニー)を視野においたギフトとしてのプランター、フラワーポット、またミニ盆栽鉢、苔玉用の器の製品展開を試みた。また、バルコニー・ガーデンに向けたテーブルセット製品の開発を行った。

これら製品は、メーカー側の取りかかりとしても、食器と同様の製造ラインに乗せることができ、低コストであることを念頭に置いた。

3. 試作

ギフト及びカタログ市場を意図し、半屋外(ベランダ、バルコニー)から室内に向けたポット・プランター25アイテム、ミニ盆栽用鉢26アイテム、苔玉用鉢・ポット12アイテム、自動給水システム用鉢1アイテム、計64アイテムの試作を行った。

また、テーブルセット4セット8アイテムの試作を行った。これらは、都市圏でのベランダ・バルコニーの現状、コスト、生産ラインの現状を踏まえ、「求めやすく、売やすく、作りやすく」というテーマを設定し、現状にマッチした製品となった。

カタログ・通販市場を意図した製品展開

- ・ミニ盆栽鉢シリーズ（圧力鑄込成型によるシンプルな形状パターン 1 2 形状）



- ・ミニ盆栽鉢シリーズ（排泥鑄込による板造り形状パターン 1 2 形状）



- ・蘭鉢シリーズ



辻与製陶所加飾

しん窯加飾



・ 苔玉鉢の展開



「求めやすく・売りやすく・造りやすく」をテーマにしたテーブルセットの展開



ポットの製品展開

・ロックシリーズ



・板造りシリーズ



・その他



4. 展示会

以下の日程により、製品開発の成果のPRとテストマーケティングを兼ねた展示会の開催及び見本市、トレードショーへの出展を行った。

- ・ 三越大有田焼展（展示会）
東京本店 6月9日～18日
出展物（プランター、ガーデンテーブル、）
- ・ 森博5周年記念事業（展示会）
（佐賀県立九州陶磁文化館ロビー・中庭においての展示）
佐賀県立九州陶磁文化館 7月20日～8月31日
出展物（プランター、ガーデンテーブル、水栓柱、ブリック煉瓦等）
- ・ 大有田プラザ展（展示会）
京王プラザホテル 8月1日～10日
出展物（プランター、ガーデンテーブル他）
- ・ 森博5周年記念肥前紀行・冬雅び展（展示会）
森の博記念堂11月30日～12月2日
出展物（プランター〔ミニ盆栽〕、ガーデンテーブル）
- ・ 第53回インターナショナルギフトショー春002（トレードショー）
東京ビッグサイト（東京国際展示場）2月26日～28日
出展物（プランター〔ミニ盆栽、苔玉鉢〕、ガーデンテーブル、）
- ・ 第21回西日本トータルリビングショー（トレードショー）
西日本総合展示場3月14日～17日
出展物（プランター〔ミニ盆栽、苔玉鉢〕、ガーデンテーブル、洗面器）



中庭でのテーブルセット、水栓柱、プランターの提案



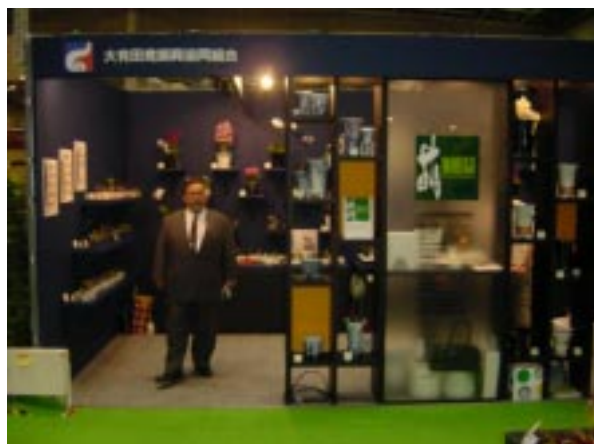
水飲器、プランター

佐賀県立九州陶磁文化館ロビー・中庭において
森博5周年記念事業の展示



テーブルセット、小型噴水、テーブルコーディネート

第53回インターナショナルギフトショー春2002



有田焼ガーデニング・グッズのブース



季節の催事へのギフトの提案、苔玉・ミニ盆栽等カタログ・通販への提案を各々のコーナーでテーマを持たせたプレゼンテーションにした



園芸研究家・小泉知彦氏によるミニ盆栽の説明

第21回西日本トータルリビングショー
西日本・九州地区へのプレゼンテーションとして、西日本トータルリビングショーに出展した。



5. 講演会

有田焼プランターのPR及び使い方または特性について、大有田焼振興（協）（中小企業活路開拓調査実現化事業）の取り扱いの中で、森博5周年記念肥前紀行・冬雅び展催事として、製造者、取扱者、ユーザーを対象とした講演会を開催した。

- ・「小さなサイズの和の植物の提案」

講師：園芸研究家・小泉知彦氏

平成13年11月30日

- ・「やきものとガーデニング」

講師：ガーデンデザイナー・山崎誠子氏

平成13年12月1日

6. まとめ

有田焼プランター製品に関して12年度から13年度中に開催した展示会を通じ、王子緑化(株)・(株)グンゼ緑化事業部・京王グリーンサービス(株)・(株)日比谷花壇・(株)第一園芸等業界大手または、アラブラス(苔玉製作)、アクセスライン(株)(自動給水装置)、園芸研究家・小泉知彦氏(ミニ盆栽)等との繋がりを得た。

これらガーデニング業界関係者からの依頼・助言を基に試作・検討を繰り返し製品開発を行い、有田焼業界に移転することで、カタログ通信販売および企画商品の商品化を行った。

また、大有田焼振興(協)の事業の中で、これら有田焼ガーデニング・グッズブランドとして「MOEGI 萌」を確立し、商・工をとおして有田焼ガーデニング製品の流通チャンネル構築を行っているところである。

「MOEGI 萌」



有田焼のガーデニンググッズブランドとして、確立を図る。「もえぎ」とは芽吹いた若葉の色や様子を表しているが、有田焼上絵具でよく用いる緑色(もよぎ)である。

(2)有田焼人形等製品（ノベルティ製品）の開発

1. はじめに

有田焼からくり人形、からくり時計製品開発により発生した技術を基に時計、オルゴール、音声、動作と融合した有田焼製品または有田焼人形産業の確立を目的とした。

2. 研究開発の方向性

有田焼からくり人形、からくり時計（ハイテク有田焼人形委員会）製作の課程で得られたノウハウと、異業種間交流を基に、有田焼人形製品の確立を目的とし、製品開発を行った。

これら製品の位置付けとして、現在県立九州陶磁文化館に収蔵、展示しているからくりオルゴール時計のレプリカ製品、グッズ製品、より汎用性のある（価格帯を抑えた）動く有田焼人形または音楽を奏でる有田焼とし、大有田焼振興（協）（ハイテク有田焼（HA）人形委員会、デザイン研究会ノベルティ分科会）への支援とした。

3. 試作

1) からくりオルゴール時計レプリカ製品

（佐賀県立九州陶磁文化館ミュージアム・グッズ）

・ マグネット製品の開発。

九州陶磁文化館に所蔵している「からくりオルゴール時計の歯車・四季の人形・有田の文様をモチーフにして、マグネット製品の開発を行った。

これは、九州陶磁文化館ミュージアムグッズとして同館で販売している。



C.G.によるシュミレーション



製品

・ からくりオルゴール時計、四季の人形のレプリカ製品の開発。これらは、時計本体を製作した（株）丹青社をとおり、成田空港出発ロビーに1 2体を展示中である。

成田空港出発ロビーに展示しているレプリカ人形



ディスプレイの様子



季節の人形



からくり人形本体

時計に取り付けている人形は、時計メカとの接合部がありこれらの型修正および使用型の製作等を行い、レプリカ製品の開発を行った。

2) 奈良県万葉ミュージアム、万葉歌人形制作
 平成13年9月にオープンした奈良県万葉文化館から依頼の万葉歌人の有田焼による人形制作として、原型制作及びハイテク有田焼（HA）人形委員会への制作支援を行った。
 人形は、全11体におよび、うち10体が文化館への収蔵品となった。立像にして約70cmの大きさである。



額田王（深川製磁加飾）



山上憶良（香蘭社加飾）



大伴坂上郎女（深川製磁加飾）



大伴旅人（香蘭社加飾）



采女（深川製磁加飾）



大伴家持（香蘭社加飾）



娘子（深川製磁加飾）



坂上田村麻呂（香蘭社加飾）



柿本人麻呂（香蘭社加飾）



采女座像（深川製磁加飾）



防人（深川製磁加飾）

4. まとめ

県立九州陶磁文化館に収蔵展示中のからくりオルゴール時計製作を通し、培われたノウハウ、異業種との繋がりの中で、陶磁器に異なる付加価値を付けることによって、新しい有田焼のスタイルを確立する。

また、有田焼人形産業の確立を目指す。